6〔中学校　国語〕

受験区分	受験番号	氏　　名

〔注意事項〕

1　試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

2　この試験は、コンピュータを利用して採点するため、解答用紙にていねいに鉛筆で記入してください。

3　解答用紙には解答記入欄以外に次の記入があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしてください。

(1)　受験区分・受験番号欄

受験区分・受験番号（数字）を受験票のとおりに記入し、さらにその下のマーク欄にマークしてください。正しくマークされていない場合には、採点できないことがあります。

(2)　氏名欄、校種等・教科（科目）欄

氏名・フリガナ及び校種等・教科（科目）を記入してください。なお、校種等・教科（科目）については、受験票のとおりに記入してください。

4　試験時間は60分です。

5　解答は、解答用紙の解答記入欄にマークしてください。例えば、［1］と表示のある解答番号に対して③と解答する場合は、次の（例）のように解答番号［1］の解答記入欄の③にマークしてください。

（例）

解答番号	解答記入欄 1 － 20
［1］	① ② ● ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

6　解答用紙の解答記入欄は、全部で、［100］まで記入できるようになっていますが、〔中学校　国語〕試験の解答番号は１～50 ですので、解答記入欄の［51］～［100］は絶対に記入しないでください。

7　どの問題も、解答番号一つにつき解答記入欄にマークできる答えは必ず一つです。二つ以上の番号にマークしたものは採点されません。

8　解答番号のマークを間違えたときは、消しゴムで完全に消してからマークしてください。

9　計算を要する問題は、問題用紙の余白を利用してください。解答用紙で計算しないでください。

10　問題の内容についての質問はできません。

〔一〕次の問いに答えなさい。

問一　次の記述は、平成二十九年三月に告示された「中学校学習指導要領」の「第２章　各教科」「第１節　国語」「第２　各学年の目標及び内容」〔第１学年〕「２　内容」〔知識及び技能〕「(１)言葉の特徴や使い方」に関する事項の一部である。空欄Ⅰ～Ⅲに当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑤のうちから選びなさい。解答番号は 1 。

ア　音声の働きや仕組みについて、理解を深めること。

イ　小学校学習指導要領第２章第１節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち Ⅰ 程度までの漢字を読むこと。また、学年別漢字配当表の漢字のうち９００字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うこと。

ウ　Ⅱ 語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。

エ　Ⅲ について理解するとともに、指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めること。

オ　比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うこと。

	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
①	３００字程度から４００字	事象や行為、心情を表す	単語の類別
②	３５０字程度から４５０字	抽象的な概念を表す	単語の活用
③	３００字程度から４００字	事象や行為、心情を表す	単語の活用
④	３００字程度から４００字	抽象的な概念を表す	単語の活用
⑤	３５０字程度から４５０字	抽象的な概念を表す	単語の類別

問二　平成二十九年三月に告示された「中学校学習指導要領」の「第２章　各教科」「第１節　国語」「第２　各学年の目標及び内容」〔第２学年〕「２　内容」〔思考力、判断力、表現力等〕「Ａ　話すこと・聞くこと」に関する事項の記述として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから選びなさい。解答番号は 2 。

① 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめること。

② 自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えること。

③ 必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめること。

④ 資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。

⑤ 目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。

Kyosaguilop

問三　漢字の読み方として**適切ではないもの**を、次の①～⑤のうちからそれぞれ選びなさい。解答番号は 3 ～ 7 。

3
① 宛ら（さなが）　② 堆い（うずたか）　③ 肯ずる（がえん）
④ 約やか（こま）　⑤ 敏い（さと）

4
① 総角（あげまき）　② 追儺（ついな）　③ 汗衫（あさじ）
④ 飛白（かすり）　⑤ 首途（かどで）

5
① 鳰（かいつぶり）　② 鴛鴦（くいな）　③ 蚯蚓（みみず）
④ 螽蟖（きりぎりす）　⑤ 紙魚（しみ）

6
① 開闢（かいえき）　② 穿鑿（せんさく）　③ 桎梏（しっこく）
④ 放擲（ほうてき）　⑤ 怯懦（きょうだ）

7
① 領袖（りょうしゅう）　② 灰燼（かいじん）　③ 髣髴（ほうふつ）
④ 箴言（しんげん）　⑤ 隘路（えきじ）

問四　次の二重傍線部と同じ漢字を書くものとして最も適切なものを、後の①～⑤のうちからそれぞれ選びなさい。解答番号は 8 ～ 10 。

8
返信をサイソクする。
① ヘイソクされた空間にいる。
② 販売をソクシンする。
③ 逃走犯をホソクする。
④ ホウソクが成り立つか確認する。
⑤ その件についてはソクブンしている。

9
物事のシンギを確かめる。
① ジギを得た発言をする。
② ギジン法を用いる。
③ ギギを申し立てる。
④ ギキョクを執筆する。
⑤ 法廷でギショウする。

10
カンマンな動き方で進む。
① 自分の実力にマンシンする。
② 諸国をマンユウする。
③ 長期の休みをマンキツする。
④ 風邪のマンエンを防ぐ。
⑤ ギマンだとも知らずに信じてしまった。

kyosai-guild.jp

問五　類義語の組合せとして最も適切なものを、次の①～⑤のうちから選びなさい。
解答番号は 11 。

① 俯瞰 ― 座視　② 壮挙 ― 版図　③ 弊風 ― 悪習
④ 狼狽 ― 狼藉　⑤ 安寧 ― 慇懃

問六　対義語の組合せとして**適切ではないもの**を、次の①～⑤のうちから選びなさい。
解答番号は 12 。

① 稚拙 ― 老巧　② 委曲 ― 仔細　③ 寛容 ― 厳格
④ 起工 ― 竣工　⑤ 不易 ― 流行

問七　物の数え方の組合せとして**適切ではないもの**を、次の①～⑤のうちから選びなさい。
解答番号は 13 。

① 屏風 ― 一宇　② 箪笥 ― 一棹　③ 土地 ― 一筆
④ 烏賊 ― 一杯　⑤ 蝶 ― 一頭

問八　傍線部の四字熟語の使い方として**適切ではないもの**を、次の①～⑤のうちから選びなさい。
解答番号は 14 。

① 日本食が健康的であるということは、外国人の方が傍目八目でよく知っている。
② 野球部は敗戦続きだったが、公式戦に一年生投手を先発させて乾坤一擲の勝負に出た。
③ 山登りで急に荒天となったが、彼は仲間の様子を気遣うなど泰然自若としていた。
④ 親友二人で仲違いしたが、一方からの言葉かけによる以心伝心となって仲直りした。
⑤ 文化祭の企画をクラスで募ったが、付和雷同する人ばかりで自分の意見を言う人は少ない。

問九　故事成語とその意味の組合せとして**適切ではないもの**を、次の①～⑤のうちから選びなさい。
解答番号は 15 。

① 「左袒」 ― 味方すること。
② 「他山の石」 ― どんなことでも自分を磨く助けになる。
③ 「和光同塵」 ― 仲の悪い者同士や敵味方が同じところにいる。
④ 「髀肉の嘆」 ― 手柄を立てる機会のないことを嘆く。
⑤ 「鼓腹撃壌」 ― 天下が良く治って民が平和な生活を楽しむさま。

問十　時節と季語の組合せとして最も適切なものを、次の①～⑤のうちから選びなさい。
解答番号は 16 。

① 春 ― 冴返る・霞・踏青・砧　② 夏 ― 麦の秋・青嵐・袷・時鳥
③ 秋 ― 冷やか・鰯雲・炭・鹿　④ 冬 ― 短日・山眠る・障子・紙魚
⑤ 新年 ― 御降・若水・出代・嫁が君

kyosaiguild.jp

問十一　日記文学について述べたものとして**適切ではないもの**を、次の①～⑤のうちから選びなさい。解答番号は 17 。

① 『とはずがたり』は、土地相続の訴訟のため、京都から鎌倉へ下った道中と鎌倉滞在の記録である。

② 『更級日記』は平安時代に成立した、物語の世界に憧れた少女時代から夫と死別した晩年までの回想録である。

③ 『紫式部日記』は、前半に宮廷生活を通しての詳細な記録、後半に人物批評等の消息文が記された日記である。

④ 『土佐日記』は日本最古の仮名による日記文学で、任国土佐から帰京するまでを機知に富んだ表現で著した旅日記である。

⑤ 『建礼門院右京大夫集』は、平家の没落を背景に、平資盛との交際・別離・死などを振り返り綴った回想録である。

問十二　作品を成立順に並べたものとして最も適切なものを、次の①～⑤のうちから選びなさい。解答番号は 18 。

① 『今鏡』 → 『栄花物語』 → 『大鏡』 → 『増鏡』

② 『落窪物語』 → 『平中物語』 → 『狭衣物語』 → 『浜松中納言物語』

③ 『蜻蛉日記』 → 『讃岐典侍日記』 → 『和泉式部日記』 → 『建春門院中納言日記』

④ 『後撰和歌集』 → 『詞花和歌集』 → 『新古今和歌集』 → 『後拾遺和歌集』

⑤ 『好色一代男』 → 『日本永代蔵』 → 『浮世風呂』 → 『南総里見八犬伝』

問十三　近現代の歌人とその作品の組合せとして**適切ではないもの**を、次の①～⑤のうちから選びなさい。解答番号は 19 。

① 会津八一 ― 『鹿鳴集』

② 石川啄木 ― 『あこがれ』

③ 若山牧水 ― 『赤光』

④ 寺山修司 ― 『血と麦』

⑤ 佐々木信綱 ― 『思草』

問十四　近現代の詩人とその作品の組合せとして**適切ではないもの**を、次の①～⑤のうちから選びなさい。解答番号は 20 。

① 室生犀星 ― 『抒情小曲集』

② 立原道造 ― 『萱草に寄す』

③ 佐藤春夫 ― 『殉情詩集』

④ 上田敏 ― 『邪宗門』

⑤ 北村透谷 ― 『蓬萊曲』

kyosai-juku.jp

問十五　近代文学の作者とその作品、および文芸思潮の組合せとして最も適切なものを、次の①～⑤のうちから選びなさい。解答番号は 21 。

① 幸田露伴 ― 『五重塔』 ― 擬古典主義
② 田山花袋 ― 『田舎教師』 ― 反自然主義
③ 森鷗外 ― 『小説総論』 ― 自然主義
④ 泉鏡花 ― 『金色夜叉』 ― 浪漫主義
⑤ 二葉亭四迷 ― 『桐一葉』 ― 写実主義

問十六　中国の思想家と学派の組合せとして**適切ではないもの**を、次の①～⑤のうちから選びなさい。解答番号は 22 。

① 鄒衍 ― 陰陽家
② 蘇秦 ― 縦横家
③ 公孫龍 ― 法家
④ 列子 ― 道家
⑤ 荀子 ― 儒家

問十七　海外の作家についての説明として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから選びなさい。解答番号は 23 。

① トルストイは十九世紀ロシア文学の代表的作家で、『カラマーゾフの兄弟』『罪と罰』などの作品を発表した。
② スタンダールは、『赤と黒』で王政復古下の腐敗したフランス社会を舞台に青年の野望と挫折を描いた。
③ スティーブンソンはいわゆる「失われた時代」を代表するシカゴ出身の作家で、『日はまた昇る』を著した。
④ トーマス＝マンは、『ジャン・クリストフ』を発表し、独特のアイロニーによる象徴的リアリズム文学を生み出した。
⑤ イプセンはノルウェーの劇作家・詩人で、児童劇『青い鳥』などの作品で日常生活の中に隠れている幸福の追求を描いた。

kyosai-guild.jp

著作権の関係で、掲載できません

kyosai-guild.jp

著作権の関係で、掲載できません

kyosai-guild.jp

著作権の関係で、掲載できません

kyosai-guild.jp

著作権の関係で、掲載できません

kyosai-guild.jp

著作権の関係で、掲載できません

kyosai-guild.jp

著作権の関係で、掲載できません

kyosai-guild.jp

著作権の関係で、掲載できません

kyosai-guild.jp

著作権の関係で、掲載できません

kyosai-guild.jp

著作権の関係で、掲載できません

kyosai-guild.jp

著作権の関係で、掲載できません

kyosai-guild.jp

著作権の関係で、掲載できません

kyosai-guild.jp

著作権の関係で、掲載できません

kyosai-guild.jp

〔四〕次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

宮中における端午の節句の遊戯として、菖蒲の根の長短を競う「根合」が行われたときのことである。中宮のきょうだいである中納言は小宰相の君に請われて左の方、三位中将は少将の君のいる右の方として参加している。小宰相の君、少将の君はそれぞれ女房である。一方で、中納言には執心する姫君がいるが、つれないままに月日が流れている。

方人の殿上人、心々に取り出づる根のありさま、いづれもいづれも劣らず見ゆる中にも、左のは、なほなまめかしきけさへ添ひてぞ、中納言のし出でたまへる。合せもて行くほどに、持にやならむと見ゆるを、左の、はてに取り出でられたる根ども、さらに心およぶべうもあらず。三位中将、いはむかたなくまぼり居たまへり。「左勝ちぬるなめり」と、方人のけしき、したり顔に心地よげなり。

根合はてて、歌の折になりぬ。左の講師左中弁、右のは四位少将、読みあぐるほど、小宰相の君など、いかに心つくすらむと見えたり。「四位少将、いかに、臆すや」と、ア|あいなう|、中納言後見たまふほど、ねたげなり。

左

君が代のながきためしにあやめ草千ひろにあまる根をぞ引きつる

右

イ|なべてのと誰か見るべきあやめ草＊安積（あさか）の沼の根にこそありけれ|

とのたまへば、少将、「さらに劣らじものを」とて、

いづれともいかがわくべきあやめ草おなじ＊よどのにおふる根なれば

とのたまふほどに、上聞かせたまひて、ゆかしう思しめさるれば、忍びやかにて渡らせたまへり。

ウ|宮の御覧ずるところに寄らせたまひて|、「をかしきことの侍りけるを、などか告げさせたまはざりける。中納言、三位など、方分るるは、たはぶれにはあらざりけることにこそは」とのたまはすれば、「心に、寄る方のあるにや、分くとはなけれど、さすがに挑ましげにぞ」など聞こえさせたまふ。「小宰相、少将がけしきこそいみじかめれ。いづれ勝ち負けたる。さりとも、中納言負けじ」など仰せらるるや、ほの聞こゆらむ、中将、御簾のうちうらめしげに見やりたる尻目も、エ|らうらうしく愛敬づき|、人よりことに見ゆれど、なまめかしう恥づかしげなるは、なほたぐひなげなり。

「むげに、かくて止みなむも、名残つれづれなるべきを、＊琵琶の音こそ恋しきほどになりにたれ」と、中納言、弁をそそのかしたまへば、「＊そのこととなき暇なさに、みな忘れにてはべるものを」と言へど、逃るべうもあらずのたまへば、＊盤渉調に掻い調べて、はやりかに掻きならしたるを、中納言、堪へずをかしうや思さるらむ、オ|和琴取り寄せて、弾き合せたまへり|。この世のこととも聞こえず。三位、横笛、四位少将、拍子とりて、蔵人少将、伊勢の海うたひたまふ、声まぎれずうつくし。

上は、さまざまおもしろく聞かせたまふ中にも、中納言は、かううちとけ、心に入れて弾きたまへる折は少なきを、めづらしう思しめす。明日は御物忌なれば、夜更けぬさきに、とく帰らせたまふとて、左の根の中に、ことに長きを、ためしにもとて、持たせたまへり。

中納言まかりでたまふとて、「階のもとの薔薇も」と、うち誦じたまへるを、若き人々は、カ|あかず慕ひぬべく|、めできこゆ。

キ|「かの宮わたりにも、おぼつかなきほどになりにけるを」|と、おとなはまほしう思せど、「いた

う更けぬらむ」とて、うち臥したまへれど、まどろまれず。「＊人は物をや」とぞ言はれたまひける。

またの日、あやめも引き過ぎぬれど、名残にや、＊さうぶの紙あまた引き重ねて、

ク 昨日こそ引きわびにしかあやめ草深きこひぢにおり立ちしまに

と聞こえたまへど、例のかひなさを思しなげくほどに、はかなく五月も過ぎぬ。

（『堤中納言物語』から。一部表記を改めたところがある。）

＊**安積**……安積の沼は岩代国（福島県）の歌枕で、「花がつみ」の名所

＊**よどの**……山城国（京都府南部）淀野付近

＊**琵琶の音こそ**……白楽天の詩『琵琶行』を踏まえる

＊**そのこととなき**…『琵琶行』を典拠とする対応

＊**盤渉調**……雅楽の六調子の一つで秋・冬の調

＊**人は物をや**……『和漢朗詠集』の「夏の夜を寝ぬにあけぬといひおきし人はものをや思はざりけむ」を踏まえる

＊**さうぶの紙**……襲の色目。表青、裏紅梅

問一 傍線部**ア**「あいなう」、傍線部**エ**「らうらうしく」、傍線部**カ**「あかず」の、ここで用いられている意味の組合せとして最も適切なものを、次の①～⑤のうちから選びなさい。解答番号は 38 。

① **ア** 不謹慎で　**エ** 若々しく　**カ** 心かき乱される思いで
② **ア** 羨ましく　**エ** 涼やかで　**カ** 際限なく引き留めて
③ **ア** 哀れで　**エ** 賢そうで　**カ** 自分たちのおしゃべりに夢中で
④ **ア** どうしようもなく　**エ** 洗練されて　**カ** いつまでも聞きほれて
⑤ **ア** 果てしなく　**エ** 厳めしく　**カ** 振り向いてもらえず落胆して

問二 傍線部**イ**「なべてのと誰か見るべきあやめ草安積の沼の根にこそありけれ」とあるが、その歌意として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから選びなさい。解答番号は 39 。

① 左の方の素晴らしい菖蒲を見て並みのものと思う人がいるでしょうか。安積の沼から引いてきたものだったのですね。
② 左右の菖蒲を並べて同等に優れていると見なす人がいるでしょうか。安積の沼からと言うがあさはかなものですね。
③ 右の方の菖蒲をありふれた普通の品だと見る人がいるでしょうか。安積の沼から引いてきた一風変わったものですよ。
④ 左の方の菖蒲が右の方の立派な菖蒲に比肩すると誰が見るでしょうか。安積の沼からと言うが沼の深さ程の差があることですよ。
⑤ 右の方の菖蒲は誰も見たことがないと言うのでしょうか。安積の沼から引いてきたつまらないものだったのですよ。

Kyosai-gijuku.jp

問三　傍線部ウ「宮の御覧ずるところに寄らせたまひて」とあるが、その理由を説明したものとして最も適切なものを、次の①～⑤のうちから選びなさい。解答番号は 40 。

① 帝は、根合に大勢の者が集まり盛況なのを知らされ、自分も参加してみたいと思ったから。
② 帝は、宮中において根合が行われていると聞きつけ、その様子を見てみたいと思ったから。
③ 帝は、根合で活躍する中納言の噂を聞き、中納言の実力のほどを確認したいと思ったから。
④ 帝は、根合を催している中宮からの知らせを受け、同席し一緒に楽しみたいと思ったから。
⑤ 帝は、根合の終盤である和歌が聞こえてきたため、最後の奏楽を味わいたいと思ったから。

問四　傍線部オ「和琴取り寄せて、弾き合せたまへり」とあるが、その理由を説明したものとして最も適切なものを、次の①～⑤のうちから選びなさい。解答番号は 41 。

① 中納言の思い付きにより予期せず奏楽の流れになり、左中弁が白楽天の『琵琶行』を意識して対応するが滑稽な調子になってしまったので、中納言は自分が弾いてその場を取り成そうと思ったから。
② 誰もが奏楽のことなど忘れていたところが中納言の一声で左中弁の軽やかな琵琶の音色が辺りに響き、白楽天の『琵琶行』さながらに人々も次々に追随し、中納言も演奏せずにはいられなかったから。
③ 左中弁が中納言の言葉を受け、つまらない用事で忙しかったことを理由に一度は辞退してから披露した琵琶の音色は白楽天の『琵琶行』を思わせ、中納言はその軽妙な調べを趣深く感じたから。
④ 根合の終わりを前にした中納言の名残惜しさを感じ取り、左中弁が気を利かせて琵琶の音色を響かせたので雰囲気が盛り上がり、中納言も白楽天の『琵琶行』を踏まえて余韻に浸りたくなったから。
⑤ 左中弁が用意が無いと言いつつも披露した巧みな演奏には、白楽天の『琵琶行』を理解する左中弁の教養と共に俗事に追われる苦悩が表れていたので、中納言は慰労の気持ちを伝えたかったから。

問五　傍線部キ「『かの宮わたりにも、おぼつかなきほどになりにけるを』と、おとなはまほしう思せど」とあるが、このときの「中納言」の心情を説明したものとして最も適切なものを、次の①～⑤のうちから選びなさい。解答番号は 42 。

① 姫君に忘れられているようであるのが寂しく、姫君以外の女の元へ通いたくなる自分にも悩んでいる。
② 姫君との久しぶりの再会が待ち遠しく、今すぐにでも姫君に会いにいきたいと気持ちがはやっている。
③ 姫君への想いが次第に薄れてきているが、大切な姫君なのでこれからも養っていきたいと考えている。
④ 姫君のところへ長い間ご無沙汰が続いていることが気がかりで、姫君を訪ねて行きたいと思っている。
⑤ 姫君が不安に思われているだろうことを憂い、自由に姫君を訪問できる身分になりたいと願っている。

Kyosaguild.jp

問六　傍線部ク「昨日こそ引きわびにしかあやめ草深きこひぢにおり立ちしまに」とあるが、この和歌と同じ修辞法が使われている和歌として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから選びなさい。解答番号は 43 。

① 筑波嶺の峰より落つるみなの川恋ぞつもりて淵となりぬる
② わたの原こぎ出でてみればひさかたの雲居にまがふ沖つ白波
③ かささぎの渡せる橋に置く霜の白きを見れば夜ぞ更けにける
④ 立ち別れいなばの山の峰に生ふるまつとし聞かば今帰り来む
⑤ あしびきの山鳥の尾のしだり尾の長々し夜をひとりかも寝む

問七　本文の内容と合致しているものとして最も適切なものを、次の①～⑤のうちから選びなさい。解答番号は 44 。

① 宮中において華々しく活躍する中納言であるが、姫君に対しては積極的に行動できず、せつない思いを抱えている。
② 帝が中納言の奏楽の腕前や類まれなる存在感に感心していると、中納言は物忌みのため早々に去って行った。
③ 左の方の菖蒲が抜き出ていると認められた中で、三位中将は少将の君にそそのかされて負け惜しみを歌に詠んだ。
④ 中納言が退出する際の様子から女房達にはひいきにする男性がいることが伺えるが、中宮はそれを快く思っていない。
⑤ 興が高まり奏楽に移り行くが、中納言がその風情を堪能している一方で、他の者はしきたりを重んじて従っているだけである。

kyosai-guild.jp

〔五〕次の文章は、張儀が斉王に会い、自説を説いている場面である。本文を読み、後の問いに答えなさい。（設問の都合上、訓点を省略したところがある。）

臣聞レ之、斉與レ魯三戦、而魯三勝、國以危、亡隨二其後一。雖レ有二勝名一、而有二亡レ之實一。是何故也。斉Ⅰ而魯Ⅱ。A今趙之與秦也、猶斉之於魯也。秦趙戦二於＊河漳之上一、再戦而再勝レ秦。戦二於＊番吾之下一、再戦而再勝レ秦。四戦之後、趙亡二卒數十萬一、＊邯鄲僅存。B雖レ有二勝レ秦之名一、而國破矣。是何故也。秦Ⅲ而趙Ⅳ也。

今秦楚嫁レ子取レ婦、爲二＊昆弟之國一。韓獻二＊宜陽一、魏＊效二＊河外一、趙入レ朝二＊黽池一、割二河間一以事レ秦。大王不レ事レ秦、秦驅二韓魏一攻二斉之南地一、悉レ趙涉二＊河關一、指二＊博關一。＊臨淄＊即墨、非二王之有一也。C國一日被レ攻、雖レ欲レ事レ秦、不レ可レ得也。是故願大王熟計之一。斉王曰、斉僻陋隠居、託二於東海之上一。未三嘗聞二社稷之長利一。D今大客幸而教レ之。請奉二社稷一以事レ秦。獻二魚鹽之地三百里一於秦。

（『戦国策』から。一部表記を改めたところがある。）

＊河漳……華北を流れる川　＊番吾……趙の邑　＊邯鄲……趙の首都　＊昆弟……兄弟
＊宜陽……韓の要地　＊效……差し出す　＊河外……魏の黄河以南の地　＊黽池……秦の邑
＊河關……黄河の関　＊博關……斉の関門　＊臨淄……斉の首都　＊即墨……斉の邑

kyosaguild.jp

問一　空欄 Ⅰ ・ Ⅱ ・ Ⅲ ・ Ⅳ に当てはまる語の組合せとして最も適切なものを、次の①～⑤のうちから選びなさい。解答番号は 45 。

① Ⅰ 弱　Ⅱ 強　Ⅲ 大　Ⅳ 小
② Ⅰ 大　Ⅱ 小　Ⅲ 強　Ⅳ 弱
③ Ⅰ 小　Ⅱ 大　Ⅲ 賢　Ⅳ 愚
④ Ⅰ 強　Ⅱ 弱　Ⅲ 遠　Ⅳ 近
⑤ Ⅰ 賢　Ⅱ 愚　Ⅲ 小　Ⅳ 大

問二　傍線部A「今趙之與秦也、猶斉之於魯也」に返り点を施したものとして最も適切なものを、次の①～⑤のうちから選びなさい。解答番号は 46 。

① 今趙之與レ秦也、猶二斉之於一レ魯也
② 今趙之レ與秦也、猶二斉之於一魯也
③ 今趙之與レ秦也、猶レ斉二之於一魯一也
④ 今趙之レ與秦也、猶二斉之於一レ魯也
⑤ 今趙之レ與秦也、猶二斉之於一魯一也

問三　傍線部B「雖有勝秦之名、而國破矣」を解釈したものとして最も適切なものを、次の①～⑤のうちから選びなさい。解答番号は 47 。

① 趙は戦争で秦に勝ったばかりか、他の国もことごとく打ち破った。
② 趙は秦に勝つという名目で自国の兵を集めたが、秦との戦争に敗れた。
③ 趙は戦争で秦に勝つだろうと言われていたが、実際には勝てなかった。
④ 趙は戦争で秦に勝ったが、他国との交渉は優位に進められなかった。
⑤ 趙は戦争で秦に勝ったという名誉はあったが、自国は荒廃した。

kyosai-gunji.jp

問四 傍線部C「國一日被攻、雖欲事秦、不可得也」を解釈したものとして最も適切なものを、次の①～⑤のうちから選びなさい。解答番号は 48 。

① 国が一度攻め込まれたくらいでは、秦に仕える余力が失われるとは思えない。
② 国が一度攻め込まれてしまっても、秦に仕えたいという気持ちを失ってはならない。
③ 国が一度攻め込まれたとしても、秦に仕えるとともに他の国にも仕えるべきである。
④ 国が一度攻め込まれてからでは、秦に仕えたいと思ってもそれはかなわない。
⑤ 国が一度攻め込まれたならば、秦に仕える立場であっても秦との国交は避けるべきである。

問五 傍線部D「今大客幸而教之」とあるが、その内容を説明したものとして最も適切なものを、次の①～⑤のうちから選びなさい。解答番号は 49 。

① 張儀が斉王に対して斉が他国との争いに有利であることを説き、斉王はそれを理解した。
② 張儀が斉王に対して斉が秦と連衡しないことの不利を説き、斉王はそれを受け入れた。
③ 張儀が斉王に対して斉が秦と戦うことの意義を説き、斉王はそれに励まされた。
④ 張儀が斉王に対して斉が他国と連衡することの不利を説き、斉王はそれを受け入れた。
⑤ 張儀が斉王に対して斉が秦と戦うことによる利益を説き、斉王はそれを理解した。

問六 本文の内容と合致しているものとして最も適切なものを、次の①～⑤のうちから選びなさい。解答番号は 50 。

① 張儀は斉王に、斉と魯の戦いについて斉に有利となる戦略を説明した。
② 張儀は斉王に、秦と趙の戦いについて秦の敗戦の背景を説明した。
③ 張儀は斉王に、今秦と楚は兄弟関係の親密な国になっていると説明した。
④ 斉王は張儀の話を聞き、自国の弱みを克服する策はなかったと嘆いた。
⑤ 斉王は張儀の話を聞き、自国のいかなる土地も秦に献上しないことにした。

kyosai-gunji.jp

令和６年度実施　横浜市公立学校教員採用候補者選考試験
教科専門試験［中学校　国語］　　正答及び配点

解答番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
正答	①	④	④	③	②	①	⑤	②	⑤	①
配点	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
解答番号	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
正答	③	②	①	④	③	②	①	⑤	③	④
配点	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
解答番号	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
正答	①	③	②	⑤	②	④	①	④	③	②
配点	1	1	1	2	3	3	3	3	3	3
解答番号	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
正答	⑤	①	②	④	③	⑤	⑤	④	①	②
配点	2	3	3	3	3	3	3	2	3	3
解答番号	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
正答	③	④	④	①	②	①	⑤	④	②	③
配点	3	3	3	3	2	3	3	3	3	3

kyosai-guild.jp